

社会的養護

29年度 後期
10問

問 1

次の文は、ある児童福祉施設の設立に携わった人物の著書である。

この人物として正しいものを一つ選びなさい。

私たちのねがいは、重症な障害をもったこの子たちも、立派な生産者であるということを、認めあえる社会をつくろうということである。「この子らに世の光を」あててやろうというあわれみの政策を求めているのではなく、この子らが自ら輝く素材そのものであるから、いよいよみがきをかけて輝かそうというのである。「この子らを世の光に」である。この子らが、うまれながらに持っている人格発達の権利を徹底的に保障せねばならぬということなのである。

- 1.高木憲次
- 2.野口幽香
- 3.留岡幸助
- 4.堀文次
- 5.糸賀一雄

- 高木憲次(たかぎ けんじ) … 1942年に整肢療護園を開設し、**肢体不自由児の療育**を行った。
- 野口幽香(のぐち ゆか) … 1900年に**二葉幼稚園**を創立し、幼児教育、女子教育に尽力した。
- 留岡幸助(とめおか こうすけ) … 非行少年には懲罰ではなく感化教育が必要だと考え、**1899年に非行少年の保護施設である家庭学校を開設**した。その成果は国に認められ、感化院は法律によって規定された施設となり、現在の児童自立支援施設となった。

●堀文次(ほり ぶんじ) … 1950年にホスピタリズムに関する論文を発表し、ホスピタリズム論争を起こすきっかけとなった人物の一人。

●糸賀一雄(いとが かずお) … 日本の障害者福祉の第一人者であり、1946年に戦災孤児を収容するとともに知的障害児の教育を行う「近江学園」を創設した。1963年には重症心身障害児施設「びわこ学園」を創設した。「この子らを世の光に」という言葉が有名である。

問 2

次の文は、「児童福祉法」の社会的養護に関する条文の一部である。（ A ）～（ C ）にあてはまる語句の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

児童及びその保護者の（ A ）状況、これらの者の置かれている環境その他の状況を勘案し、児童を家庭において養育することが困難であり又は適当でない場合にあつては児童が家庭における養育環境と同様の養育環境において（ B ）に養育されるよう、児童を家庭及び当該養育環境において養育することが適当でない場合にあつては児童ができる限り良好な（ C ）環境において養育されるよう

（組み合わせ）	A	B	C
1	心身の	継続的	家庭的
2	経済的な	継続的	家庭的
3	心身の	継続的	施設
4	経済的な	一時的	施設
5	心身の	一時的	施設

回答

1

解説

「児童福祉法」 第3条の2

国及び地方公共団体は、児童が家庭において心身ともに健やかに養育されるよう、児童の保護者を支援しなければならない。ただし、児童及びその保護者の（A. 心身の）状況、これらの者の置かれている環境その他の状況を勘案し、児童を家庭において養育することが困難であり又は適当でない場合にあつては児童が家庭における養育環境と同様の養育環境において（B. 継続的）に養育されるよう、児童を家庭及び当該養育環境において養育することが適当でない場合にあつては児童ができる限り良好な（C. 家庭的）環境において養育されるよう、必要な措置を講じなければならない。

児童福祉法

児童福祉を保障するためにあらゆる児童がもつべき権利や支援が定められた法律です。

総則とは、児童福祉法全体に共通する規定のことを指します。(以下、総則の抜粋)

「**第一条** **全て児童**は、児童の権利に関する条約の精神にのっとり、**適切に養育**されること、その**生活を保障**されること、**愛され、保護される**こと、その心身の健やかな成長及び発達並びにその自立が図られることその他の福祉を等しく保障される権利を有する。

第二条 **全て国民**は、児童が良好な環境において生まれ、かつ、社会のあらゆる分野において、**児童の年齢及び発達の程度に応じて**、その意見が尊重され、その最善の利益が優先して考慮され、**心身ともに健やかに育成されるよう努めなければならない。**

第三条 前二条に規定するところは、児童の福祉を保障するための原理であり、この原理は、すべて**児童に関する法令の施行にあたって、常に尊重**されなければならない。」

問 3

次の文は、「児童の権利に関する条約」第20 条の一部である。（ A ）～（ D ）にあてはまる語句の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

一時的若しくは恒久的にその（ A ）環境を奪われた児童又は児童自身の（ B ）にかんがみその（ A ）環境にとどまることが認められない児童は、（ C ）が与える（ D ）の保護及び援助を受ける権利を有する。

	A	B	C	D
1	養育	社会的養護	社会	最低限度
2	家庭	最善の利益	国	特別
3	家庭	社会的養護	社会	特別
4	家庭	最善の利益	社会	最低限度
5	養育	最善の利益	国	最低限度

回答

2

解説

「児童の権利に関する条約」第20条

一時的若しくは恒久的にその（A. 家庭）環境を奪われた児童又は児童自身の（B. 最善の利益）にかんがみその（A. 家庭）環境にとどまることが認められない児童は、（C. 国）が与える（D. 特別）の保護及び援助を受ける権利を有する。

児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)とは何？

「児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）」は、**子どもの基本的人権を国際的に保障**するために定められた条約です。

18歳未満の児童（子ども）を権利をもつ主体と位置づけ、おとなと同様ひとりの人間としての人権を認めるとともに、成長の過程で特別な保護や配慮が必要な子どもならではの権利も定めています。

前文と本文54条からなり、**子どもの生存、発達、保護、参加という包括的な権利を実現・確保するために必要となる具体的な事項を規定**しています。

1989年の第44回国連総会において採択され、**1990年に発効**しました。**日本は1994年に批准**しました。

問 4 次の文は、社会的養護における子どもの権利擁護の取り組みに関する記述である。
適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

A.児童養護施設等の入所児童に対し、権利について正しく理解できるよう、「子どもの権利ノート」等を用い、わかりやすく説明することが求められている。

B.利用者からの苦情を適切に解決するため、社会福祉事業経営者は施設内に苦情の相談窓口を設け、第三者の協力を得るなどして解決に努めることとされている。

C.施設職員による被措置児童等虐待については、市町村において、子ども本人からの届出や周囲の者からの通告を受け付け、調査等の対応をすることが「児童虐待の防止等に関する法律」で法定化されている。

(組み合わせ)	A	B	C
1	○	○	○
2	○	○	×
3	○	×	○
4	×	○	×
5	×	×	○

回答

2

解説

A-○ 記述通りである。

B-○ 記述通りである。

C-× 施設職員による被措置児児童虐待について法定化はされていない。

「児童虐待の防止等に関する法律」第6条では、児童虐待を受けたと思われる児童を発見したものは、速やかに市町村や福祉事務所、児童相談所等に通告しなければならないとされている。また、第8条では、通告を受けた場合には当該児童の安全確認を行うなどの必要な措置を講ずるものとする、とされている。

社会的養護とは？

社会的養護とは、家庭における子育て支援サービスの中で、保護者の就労や貧困、子どもの病気や障害、虐待や非行によって、**家庭での生活が困難になった場合に、家族の代わりや治療、補完を行う支援**のことです。社会全体で、上記のような状況の子ども養護していくことな訳ですが、核家族・ひとり親家庭の増加など、社会も変化していて、社会的養護の役割も変化してきています。・**”全ての子ども”の養護の話**でなく、**”社会的に養護が必要な子ども”**の話であることに注意

問 5

次の文は、社会的養護の施設等における第三者評価に関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A. 第三者評価を受審するに当たっては、あらかじめ、第三者評価の評価基準に基づく自己評価を行うことが求められている。
- B. 第三者評価を受審する義務がある施設においては、第三者評価を 3 か年度に 1 回以上受審しなければならない。
- C. 児童自立生活援助事業（自立援助ホーム）における第三者評価の受審は、努力義務である。

(組み合わせ)	A	B	C
1	○	○	○
2	○	×	○
3	×	○	○
4	×	○	×
5	×	×	×

回答

1

解説

全て記述通りである。

- ・「第三者評価事業は、社会福祉事業の事業者が任意で受ける仕組みだが、社会的養護関係施設（児童養護施設、乳児院、情緒障害児短期治療施設、児童自立支援施設及び母子生活支援施設をいう。）については、子どもが施設を選ぶ仕組みでない措置制度等であり、また、施設長による親権代行等の規定もあるほか、被虐待児等が増加し、施設運営の質の向上が必要である」とされ、社会的養護関係施設における第三者評価実施が義務付けられることとなりました。
- ・受審の義務化に伴い、効果的な実施のため、また、施設の数が少ない中で評価機関が評価経験を蓄積して質の高い評価を行えるよう、原則として、全国共通の評価基準とし、社会的養護関係施設の評価についての評価機関の認証と評価調査者の研修を、全国推進組織である全国社会福祉協議会で広域的に行う仕組みとされています。なお、都道府県推進組織で独自に評価基準を策定し、認証、研修を行うことも可能とされています。

- 社会的養護関係施設の第三者評価を行う評価機関は、「社会的養護関係施設第三者評価機関」の認証を受けた機関でなければなりません。なお、当該認証の有効期間は、認証を受けた日から3年間（3か年度の満了日）とします。

- 社会的養護関係施設の特質と動向を十分知り、社会的養護関係施設の評価を多数経験し、社会的養護関係施設の質の向上に資する取組に意欲を持つ評価機関であることが必要です。

次の文は、「里親及びファミリーホーム養育指針」（平成24 年 3 月 厚生労働省）に示された家庭養護のあり方の基本に関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A.一定一律の役割、当番、日課、規則を養育者が作り、それらを子ども達に厳守させることは、子どもたちに安心・安定した家庭生活を提供できることになる。
- B.地域の普通の家庭で暮らすことで、子どもたちは養育者自身の地域との関係や社会生活に触れ、生活のあり方を地域との関係の中で学ぶことができる。
- C.養育者はこれまで築き上げてきた独自の子育て観を優先することが大切であるため、他者からの助言に耳を傾けることは、これまでの養育に対して自信を失うことになるため避けた方がよい。
- D.里親とファミリーホームが社会的養護としての責任を果たすためには、外からの支援を受けることが大前提である。

(組み合わせ)	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	×	○	×
3	×	○	○	×
4	×	○	×	○
5	×	×	×	○

A-× 「里親及びファミリーホーム養育指針」では、「一定一律の役割、当番、日課、規則、行事、献立表は、家庭になじまない」とされている。

B-○ 記述通りである。

C-× 「里親及びファミリーホーム養育指針」では、「養育者は独自の子育て観を優先せず、自らの養育のあり方を振り返るためい、他者からの助言に耳を傾ける謙虚さが必要である」とされている。

D-○ 記述通りである。

家庭養護のあり方の基本

（１）基本的な考え方（家庭の要件）

- ・ 家庭は子どもの基本的な生活を保障する場である。家庭のあり方やその構成員である家族のあり方は多様化してきているが、子どもの養育について考慮した場合、家庭には養育を担う上での一定の要件も存在する。

- ・ 社会的養護における「家庭養護」は、次の５つの要件を満たしていなければならない。

- ①一貫かつ継続した特定の養育者の確保
- ②特定の養育者との生活基盤の共有
- ③同居する人たちとの生活の共有
- ④生活の柔軟性
- ⑤地域社会に存在

里親・ファミリーホームの役割

「里親」は保護を必要する子どもを養育することを希望する人で、その役割を果たすことができると認められた人のことをいいます。

「ファミリーホーム」とは、里親として子どもたちの養育経験を十分に持っている人が、もう少し多くの子どもたちを基本的に自分の家で養育することをいいます。

イメージとしては、

「里親」＝普通の家族、「ファミリーホーム」＝大家族規模
どちらも自分の家で子どもたちを養育するという点では違いはない。

子どもたちが「大切にされている」、「生まれてきて良かった」と感じられる、

つまり人間として「あたりまえで安心できる生活」を送ることができる環境を提供するという非常に重要な役割を果たしていくことになります。

そして里親やファミリーホームは子どもたちの「家」であるだけでなく、
地域に密着して「社会全体として」子どもを育むための拠点でもあり、

子どもたちが社会とのつながりを持つための「窓口」になるための場所です。

問 7

次の文は、「母子生活支援施設運営指針」（平成24 年 3 月 厚生労働省）における支援に関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を× とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A.母親と子どもがそれぞれ抱える個別の課題に対して、目的や目標を明確にした合理的で計画的な一貫した専門的支援を行う。
- B.母親と子どもの関係を構築するための保育、保育所に入所できない子どもの保育や早朝・夜間・休日等の保育、子どもの病気・けが等の際の保育、母親が体調の悪いときの保育等、ニーズに応じた様々な施設内での保育支援を行う。
- C.資料等を使いながら必要な手続きなどについて説明を行うが、職員が機関等への同行及び代弁をすることは自立支援の妨げになるため行わない。
- D.入所初期に生活用具や家財道具等の貸し出しをすることは、母親の施設に対する依存を助長するため、自立に向けて各家庭で購入するように指導する。

(組み合わせ)	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	×
3	○	×	○	○
4	×	○	○	○
5	×	×	×	○

回答

2

解説

A-○ 記述通りである。

B-○ 記述通りである。

C-× 「母子生活支援施設運営指針」では、「資料等を使いながら、必要な手続きをわかりやすく説明し、必要に応じて職員が機関等への同行及び大弁を行う」とされている。

D-× 「母子生活支援施設運営指針」では、「必要に応じて、生活用具、家財道具等の貸し出しを行う」とされている。

母子生活支援施設運営指針. 第Ⅰ部 総論.

1. 目的

この「運営指針」は、母子生活支援施設における支援の内容と運営に関する指針を定めるものである。

社会的養護を担う母子生活支援施設における運営の理念や 方法、手順などを社会に開示し、支援の質の確保と向上に資するとともに、また 説明責任を果たすことにもつながるものである。

この指針は、施設で暮らし、退所していく母親と子どもにとって、よりよく生きること (well-being) を保障するものでなければならない。また、社会的養護には、社会や国民の理解と支援が不可欠であるため、母子生活支援施設を社会にひらかれたものとし、地域や社会との連携を深めていく努力が必要である。

支援のあり方の基本

(1) 基本的な考え方

母子生活支援施設における支援は、母親と子どもの最善の利益を保障するために行われる。

それは、暴力や貧困などの危機的な状態から抜け出すだけでなく、母親と子どもが自分の意思で課題と向き合って解決できるよう支え、さらに自身がもつ将来の夢や希望、つまり自己実現に向けた途を歩めるよう寄り添うことである。

支援におけるかかわりは母親と子どものそれぞれの人格と個性を尊重し、人としての尊厳を重視したものでなければならない。また、様々な支援の局面があるとしても、合理的で計画的な一貫した専門的支援を行う。このことは、支援の効果を高め、それぞれの関係者に対する説明責任を果たす根拠ともなる。さらにコンプライアンスの遵守にもつながる。

また、対利用者、連携等における専門的対人援助スキルの発現を徹底する。

(2) 支援のあり方

①生活の場であればこそできる支援

・支援は、できるだけ親子、家庭のあり方を重視して行われることが重要であることから、母子生活支援施設は、入所型の施設の特性を生かし、母親と子どもに母子生活支援施設運営指針 7 対して生活の場であればこそできる日常生活支援を提供する。

・入所に当たっての支援、入所初期の生活の安定への支援、就労支援、心理的問題への対応、問題を抱えたときの個別支援、退所支援、その後のアフターケアという一連の過程において、利用者の意向を意識しつつ目標設定を行い、切れ目のない支援を計画的に展開する。

・利用者の課題を正しく理解し、必要な支援を高い専門性をもって提供する必要がある。それは、「課題解決」と日常の「生活支援」を組み合わせ、母親と子どもの生活の安定と自立、子どもの健康な発達と自立を目指し、その時どきの個別のニーズや課題に対して利用者と共に取り組んでいく支援、日常のかかわりの中でその母親と子どもが元来もつニーズの充足をめざす支援、日常の様々な事象における利用者にとっての意味を見だし、実践の意味を確認しつつ進めていく支援であり、ソーシャルワークの考え方を基盤とした総合的支援である

②母親と子どもへの支援を行ううえでの職員の配慮

様々な事由で入所してくる母親と子どもに対しては、入所時には質的にも量的にも最も濃密な支援を必要とする。その後、母親と子どものニーズに即した自立に向けた中、長期の支援を行う配慮が求められる。

母親と子どもは、ともに入所前の厳しい生活環境のなかで自己肯定感が低められたり、社会や他者への信頼を傷つけられている場合も多い。そのため、母親と子どもが、ともに自己肯定感を回復し高める支援が重要である。また、「自分は自分のままでよい」という安心と癒しの場の提供に心がけ、「ひとを信じても良い」と思えるようなかわりを職員は醸成していかなければならない

問 8

次の文は、「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」（昭和23 年厚生省令第63 号）に基づく職員に関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を× とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A. 「児童の遊びを指導する者」は、放課後等デイサービス事業を行っている施設に配置され、遊びを通して子どもの心身の健康や情緒の安定を図る役割を担っている。
- B. 「児童生活支援員」は、児童心理治療施設に配置され、児童の生活支援の役割を担っている。
- C. 「児童指導員」は、児童自立支援施設に配置され、児童の自立支援の役割を担っている。

(組み合わせ)	A	B	C
1	○	○	○
2	○	○	×
3	○	×	○
4	×	○	×
5	×	×	×

回答

5

解説

A-× 児童の遊びを指導する者は、児童厚生施設に配置される。

B-× 児童生活支援員は、児童自立支援施設に配置される。

C-× 児童指導員は、児童養護施設をはじめとした児童福祉施設に配置されているが、児童自立支援施設には配置されていない。

児童自立支援施設に配置する職員

児童自立支援専門員、児童生活支援員、嘱託医及び精神科診療相当の経験を持つ医師又は嘱託医、個別対応職員、家庭支援専門相談員、栄養士、調理員、心理療法担当職員、職業指導員である。

児童厚生施設ってどんな場所？

児童福祉施設のひとつです。児童に健全な遊びを与えて、健全育成を図る目的で設置された施設のことを言います。

概要としては以下6種類に分かれています。

保育士が勤務するのは（１）～（３）までの児童館です。

1. 小型児童館
2. 児童センター
3. 大型児童館
4. 児童遊園（公園）
5. こどもの国（東京都に一つのみ）
6. 国立総合児童センター（東京都に一つのみ）

児童生活支援員

児童自立相談員など、さまざまな名称で呼ばれることもある、**児童自立支援施設**で働く職業のことをいいます。

児童自立支援施設とは、家庭での生育環境が十分でない子どもや、飲酒や喫煙、窃盗などのさまざまな非行に走った子供、または非行に走りそうな子供が入所し、生活する施設です。

児童指導員

児童養護施設などで、児童に対する生活指導、児童の指導・育成計画の企画立案、施設内の調整、親や学校・児童相談所との連絡調整業務などを行う者。任用資格。

問 9

次の【事例】を読んで、【設問】に答えなさい。

【事例】

児童養護施設で実習をしているGさんは、保育士と他職種の連携について知ることを目的に、ある職員からその職員の業務内容の説明を受けました。下記はその内容です。

私の業務内容は、入所児童の早期の退所を促進し、親子関係の再構築等を図れるようにすることです。そのために児童相談所と密接に連絡を取り合って連携をします。保護者に対しては、電話、面接等により児童の早期家庭復帰、里親委託等を可能とするための相談援助等の支援を行います。

【設問】

この職員の職名として、最も適切なものを一つ選びなさい。

1. 家庭支援専門相談員
2. 里親支援専門相談員
3. 心理療法担当職員
4. 個別対応職員
5. 母子支援員

回答

1

解説

家庭支援専門相談員

ファミリーソーシャルワーカーとも呼ばれ、家庭の調整と親子関係の再構築を図ることを目的に乳児院に配置が義務付けられている。

育児相談、里親委託の促進、入所児童の早期退所にかかわる支援を行う。

里親支援専門相談員

児童養護施設及び乳児院に地域の里親及びファミリーホームを支援する拠点としての機能を持たせ、里親委託の推進、退所児童だけでなく地域支援としての里親支援を行う。

心理療法担当職員

心理療法を必要とする子どもに、**遊戯療法やカウンセリング**を行い、子どもの安心感や安全感を再形成したり**人間関係の修正を図ったり**する。

個別対応職員

虐待を受けた子どもへの個別面接や生活場面における1対1の対応や**保護者への援助**などを行う。

母子支援員

母子生活支援施設に配置され、入所する母親に対して職業、育児、健康、将来の生活設計などの相談にのる。

問 1 0

次の【事例】を読んで、【設問】に答えなさい。

【事例】

Mさんは、L 児童養護施設で 3 年前から保育士をしている。最近、N さん（19 歳、女性）から、「職場の人間関係がうまくいかず、辛かったので仕事を辞めた。どうしたらよいか」との相談を受けた。N さんは、L 児童養護施設を措置解除となった半年前から就職先の寮で暮らしていたが、現在は友人宅で生活している。

【設問】

次のうち、N さんが利用できる福祉サービスとして、最も適切なものを一つ選びなさい。

1. ファミリー・サポート・センター事業の利用
2. 児童自立支援施設への入所
3. 婦人保護施設への入所
4. 児童自立生活援助事業（自立援助ホーム）の利用
5. 救護施設への入所

ファミリー・サポート・センター事業 …… 児童を有する子育て中の労働者や主婦等を会員として、児童の預かりの援助を受けることを希望する者と援助を行うことを希望する者との相互援助活動に関する連絡、調整を行う。

児童自立支援施設 …… 不良行為を行った子どもや行うおそれのある子ども、家庭の環境上の理由により生活指導などを要する子どもに対して、自立を支援し、あわせて退所した子どもについて相談や援助を行うことを目的とした施設。

婦人保護施設 …… 要保護女子および同伴児童を収容保護するための施設。

児童自立生活援助事業（自立援助ホーム） …… 義務教育修了後に児童養護施設や児童自立支援施設などを退所し、就労する満20歳未満の子どもたちの自立を援助する事業。

救護施設 …… 身体や精神に障害があり、経済的な問題も含め日常生活をおくるのが困難な人たちが、健康に安心して生活するための保護施設。

事例の場合、Nさんは児童自立生活援助事業の福祉サービスを利用できるので、正解は4である。